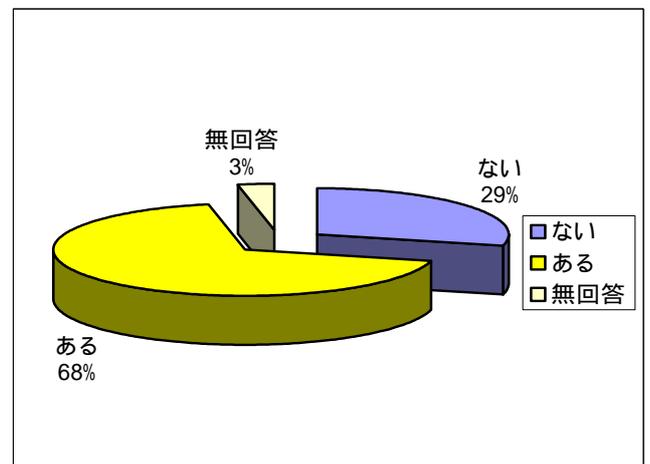
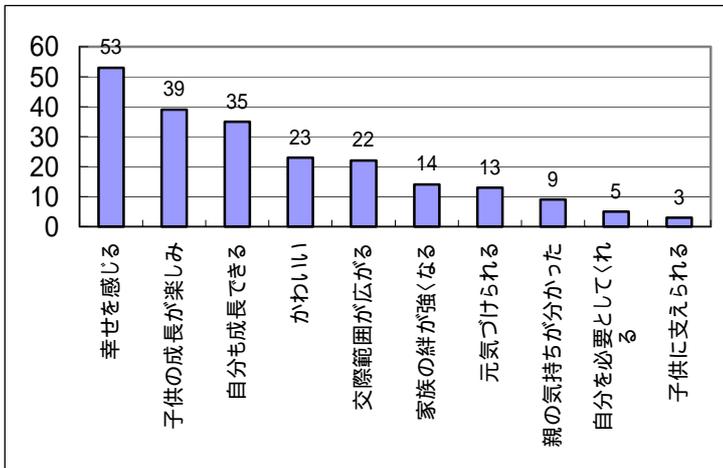




子どもはかわいい、喜びも感じるけれど 辛いときもあるんです・・・

図1. 子育てをしていて良かったなと思うこと

図2. 子育ての悩みはありますか



少子化、孤立化した子育て、家庭内での養育力の低下

子育てについて、マイナスの状況が多く聞かれる昨今・・・私達の住む町の子育てはどうなのでしょう？

平成16年4月～5月「子育てアンケート調査」へのご協力をお願いしました。

今回の広報誌「ひろば」9号ではその結果を報告いたします。アンケート調査は、桂台保育園、公田保育園、あすなる保育園、育児クラブチューリップ、井戸端しちやおう会、おもちゃ文庫、子育てサークル利用者、また地域の、子育て支援者、主任児童委員に依頼し、173件の保護者の方の回答を頂きました。今回の調査では、共働き家庭と母親が専業主婦である家庭で、子育てをしていても、意識や困りごと等、異なった点があるのではと言う、仮説もあり設問を作りました。また選択回答のみでなく、意見や思いを書いていただく設問をつくったことで、数字のみでは現れない子育ての状況を理解することができました

安心して、子どもが生まれ育てることのできる地域であるためには、地域の理解や、協力が不可欠です
どうぞ、調査結果をごらん下さい。ご意見、ご質問等もお寄せ下さい

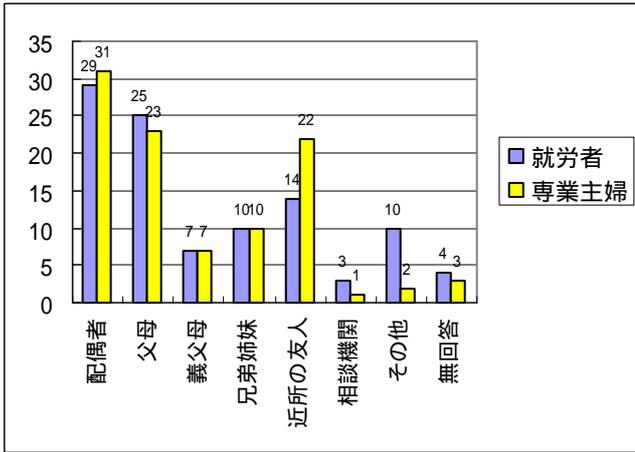
桂台地域ケアプラザ 地域交流部門
支え合い連絡会 広報分科会

目次

- ・子育てアンケート報告・・・1～6ページ
- ・地域支え合い連絡会・・・7ページ

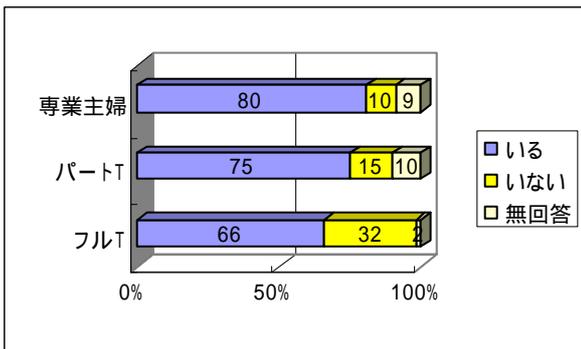
- ・子育て講座「親子で遊ぼう」実施報告
- ・編集後記・・・8ページ

図 6 . 相談相手は誰ですか



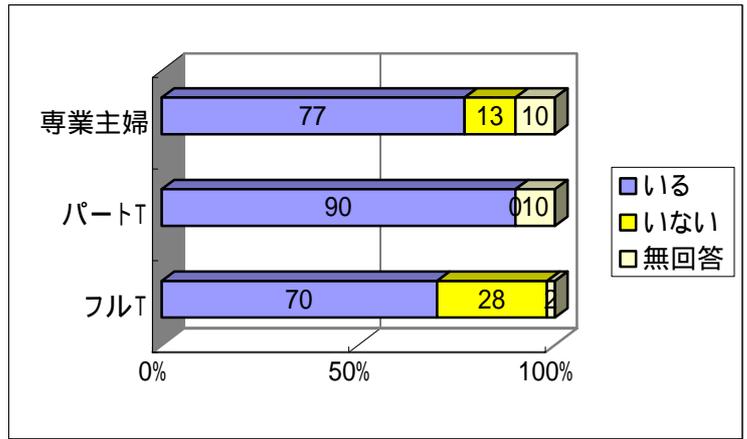
相談者がいないと応えた方は、全体の 1 % でした。相談者を配偶者と答えた方は、就労者、専業主婦家庭共に最も多い結果でした
 また専業主婦では、近所の友人と実家の親が、ほぼ同じ割合で相談者としており、就労者では、その他が 10 % あり、保育園などだと思われます。

図 8 . あなたの友達は近所にいますか



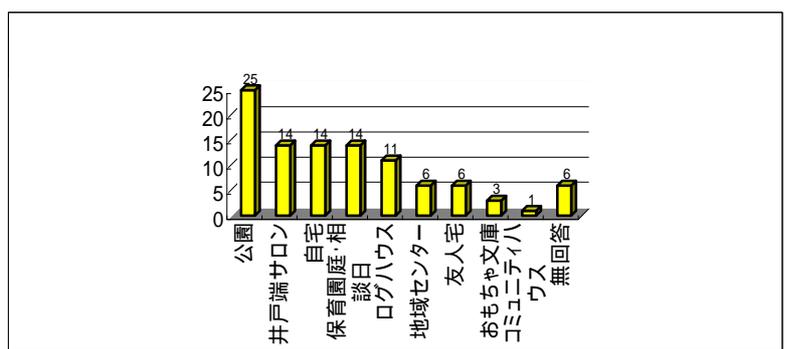
回答者（保護者）の身近な友達については、子どもの友達の有無とほぼ同率の回答がありました
 やはり、専業主婦で、10 %、フルタイムで働く保護者では、20 % 超の方が、友達がいないとの回答です
 子育てにおいて、親子共に、地域や社会での人との交流を求めているところで、満足な環境のある人も、思うようにいかない親子の存在も見えます。

図 7 . 子供の友達が近所にいますか



子どもに近所の友達がいますか？の設問で、気になるところは、専業主婦家庭で、13 % が「いない」と答えているところです。フルタイムで働く保護者では、28 % が「いない」と答えていますが、近所に友達がいないとも、保育園等にいる、また近所にも友達を作りたいが、時間がない、身近な子どもが集まる場所に子どもがいないなどの記載がありました。

図 9 . 地域の交流の場



圧倒的に多かったのが、公園です。私たちの住む町は、環境が整備され、公園が町の随所にあります。気軽にいつでも利用することのできる公園は子育てにおいて大切なコミュニティの場になっているようです。しかし、記載事項に、「子どもの集まる公園が近くにない」、「公園に行っても誰もいない」、など少子化が背景にあるのでしょうか、他の親子と交流する状況になりにくいこともあるようです

- あなたやお子さんの日頃の交流についてのご意見（共働き家庭）
- ・ 近所に子どものいる家庭が少なく自分や子どもの友達ができにくい
 - ・ 仕事の時間が長く、地域との交流がほとんどない。
 - ・ 保育園に通っている為、自然と友達ができ交流できている
 - ・ 保育園へ行っているの、子どもは友達と遊べている
 - ・ 友達をつくらなければならないといった情報はよくないと思う
 - ・ 遠い保育園に通っている為、地元のお友達ができにくい。
 - ・ 平日は仕事、休日は用事を済ませる事で手一杯で友達が出来ない事もあるので、交流の場を増やして欲しい。
 - ・ 公園に行き友達と交流を図ろうとするが、少し天気の悪い休日な人影もなく、交流する事ができない

子どもや、子育てを取り巻く環境の変化に伴って、健康に子どもが育ち、安心して生き生きと子育てができるよう子育て支援が行われています。保護者の方々は、支援に何を求め、どこで情報を得、利用しているのでしょうか？また、子育てについての意識についても、具体的に伺ってみました。

図 1 0 . 子育て情報を得る機関・機会

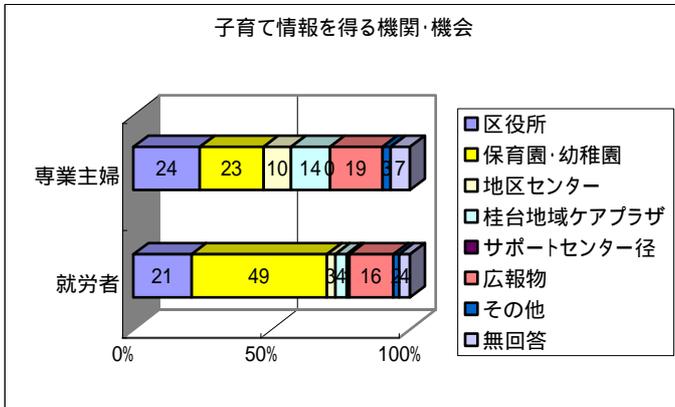
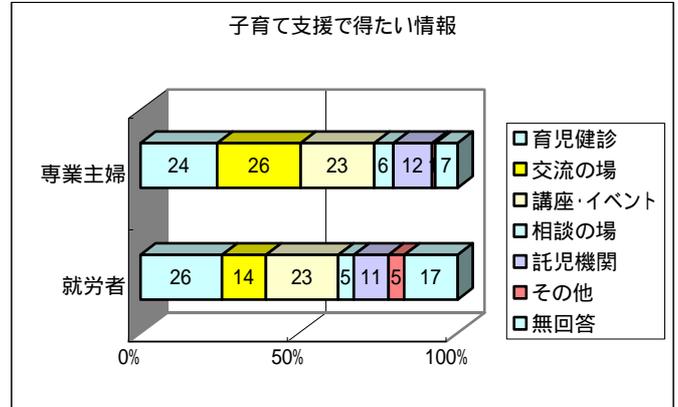


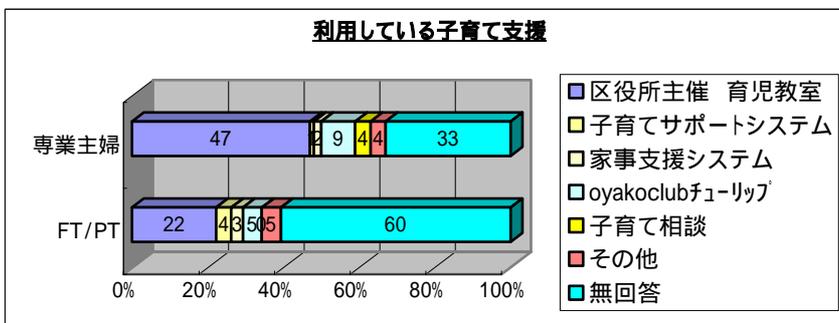
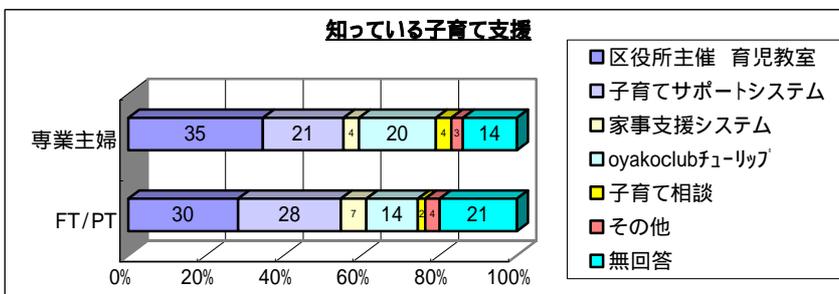
図 1 1 . 子育て支援で得たい情報



情報入手については、共働き家庭にとっては、保育園が最も多く、続いて区役所からの情報が多い結果になっています。また広報物はみなに情報入手機会として利用されています。桂台地域ケアプラザを子育て情報を得る機関として回答した専業主婦家庭の方は14%でした。

「講座・イベント」を求める回答が、専業主婦のみでなく、就労している人にも多い結果が出ています。また、「託児」についても、就労者が多いのは、子どもや、親の病時託児など、緊急時の託児に応じてくれる支援が求められているようです。

図 1 2 . 知っている子育て支援・図 1 3 . 利用している子育て支援

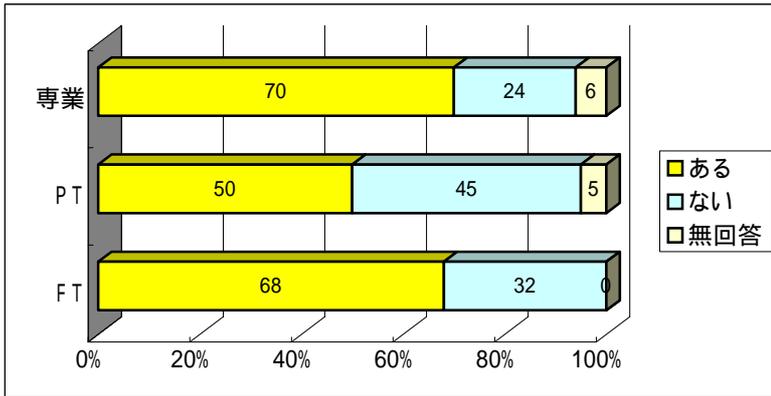


子育て支援に対するご意見

- ・緊急時の託児。病中病後の託児
- ・子供が少し大きくなり、いざ仕事をしようと思った時の不安の解消や職探しの支援。
- ・普通の託児はあるが、病児保育をしてくれるところを知らなくて困ったことがある。
- ・子供服交換会。
- ・自然の遊びを教えてくれるようなイベント
- ・母子家庭。父子家庭の集い等
- ・緊急時の安価な託児。サポートシステムの1時間800円は高く、利用できません。1時間300円くらい。困ったとき安心して利用できるシステムを望む。
- ・サークルへの入会方法等ちょっとした相談

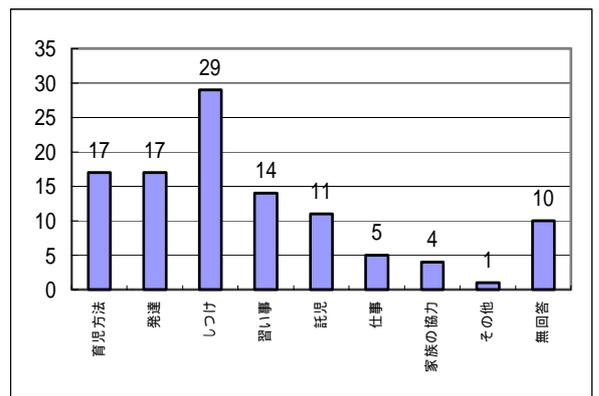
区役所の育児教室は、認知度と利用度ともに高いのですが、子育てサポートシステムは認知度は高いけれども、利用度は低い結果になっています。他の支援に関しても、認知度、利用度共に低い数字です。支援の周知方法、支援内容、利用のしやすさ（申し込み方法、掛かる費用）等様々な角度から、考える必要があるようです。

図15．子育ての悩みはありますか



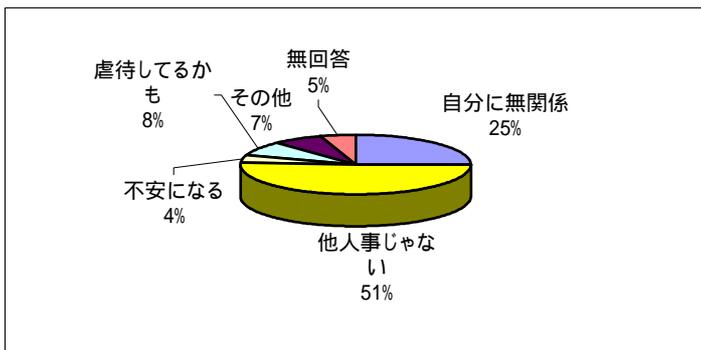
専業主婦の方は70%が「ある」と答えました。別の子育て意識調査でも「子育ての悩み」は共働き家庭より専業主婦の家庭のほうが高い結果が出ています。この傾向は重要な点です。地域の子育て環境、女性の働く職場環境、必要な子育て支援等を考えて行く必要があると考えます。

図16．子育ての悩み



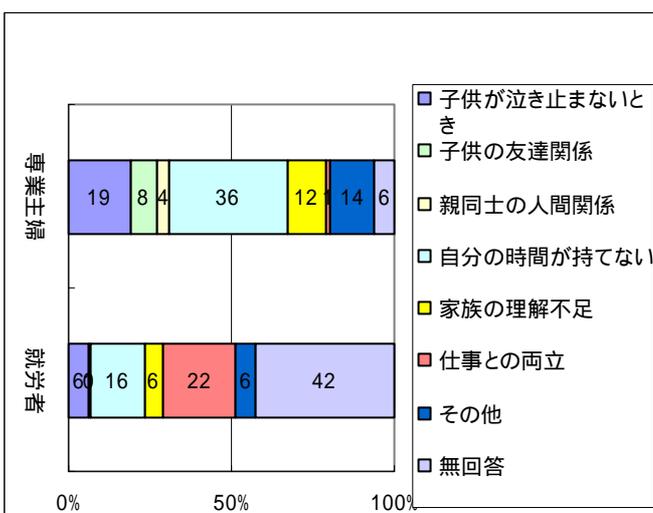
圧倒的に高い回答が、「しつけ」でした。続いて「育児方法」「発達」と続き、いつの時代も親として気がかりなことだと思います。特徴的な回答は、「習い事」で、乳幼児期からの習い事でのなやみをもっている保護者がいることです。

図16．児童虐待について



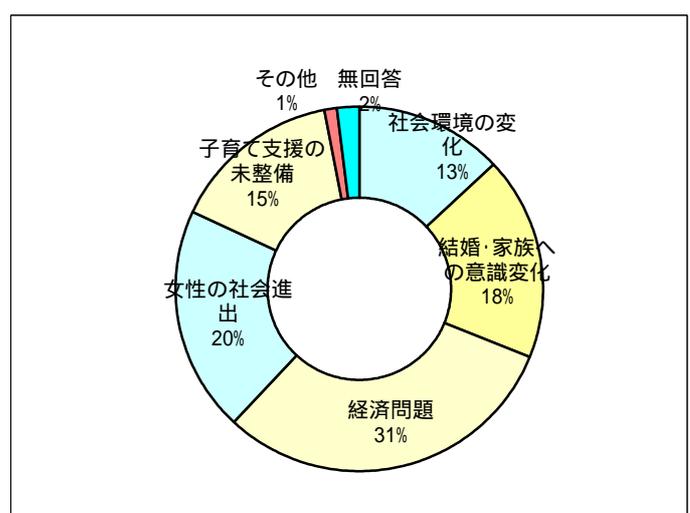
身近な地域で児童虐待の事件が起こっている今、どんな意識を持っているのが尋ねました。「他人事ではない」と答えた方が無関心と答えた方の2倍に達し、関心の高さを示しています。虐待かも知れないと不安を示した方は8%あり、悩みや、不安を話し合い、支え合える子育ての環境作りが必要だと考えられます。

図17．子育てが辛いとき

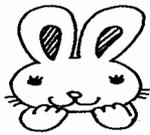


自分の時間が取れないと悩む専業主婦、仕事との両立が難しいと悩む就労者、見事なまでに悩みが分かれま

図18．少子化が進む理由は何だと思いませんか



少子化が進む理由を、第1に経済問題としながらも、続いて女性の社会進出、結婚観の変化をあげており、大変興味深い結果が得られています



調査結果から見える、私たちの町の子育て状況・・・
地域の皆さんは、どんな意見や感想をもたれたでしょうか？



今回のアンケート調査では、家族状況、子どもや保護者の地域とのかかわり、子育て支援活動についての意見
子育ての悩みや、辛さの有無やその内容などの設問への回答により、現状の地域における、子育て状況について理
解を深める結果を得ることができました。また、生き生きと、安心した子育ての実現のために、地域で、今後どう
地域福祉活動に取り組む必要があるのか、課題に気づく結果にもなりました

ひろば9号での、アンケート調査のまとめとして、調査結果から見る課題について取り上げます

子育て課題 <相談> 核家族化や少子化が進み、家族が小さくなっています。また近隣に子どもを含めた人間関係の少ない親たちがいます。子育てにまつわる相談は、専門機関の対応の必要なものもある反面、家族や友人、近所の先輩お母さんにちょっと聞いてもらえたら・・・といったものも多いようです。ニーズに応える相談のあり方、また家族や地域で支え合える環境づくりや働きかけを考える必要があります

子育て課題 <交流> 専業主婦家庭でも、共働き家庭でも、交流の機会を求めています。調査結果で交流の場のトップは「公園」でした。自由な時間に訪れた公園で、自然に複数親子の交流が持てることが望まれているのですが、少子化が進み、町の公園も人影がないことが多いのが現実です。参加型の交流のみではなく、自由に立ち寄れる場での交流は考えられないでしょうか。また講座やイベントを望む声は、共働き家庭でも高く、このような支援を行っている関係機関では、内容の検討、実施曜日や時間の工夫も、今後、検討すべきことと考えられます

子育て課題 <託児支援> 知っている子育て支援、利用している子育て支援のアンケートに興味深い結果が出ています。託児サービスである、子育てサポートシステムの認知度は高い結果でしたが、利用度は低い数字です。記載事項には、多くの保護者から、病時や緊急時の安心して利用できる託児の支援の要望が寄せられました。ニーズと支援利用状況とが合致しないのは、費用や利用手続きの問題等があるようです。また、地域の家事援助サービスの認知度は利用度と共に低く、情報提供の必要があると思われます

子育て課題 <育成支援> 子育ての悩みの設問で、トップは「しつけ」でした。続いて「発達」。近頃は、育児雑誌、テレビやインターネットなど、子育て情報を得る場は大変多くなっています。一方、実際の子育てを身近に見たり、家族や周囲の人達に子育てを教えられる事はとても少なくなっています。客観的な情報のみでなく子育ては、実際の対応法を見たり、聞いたりしながら試行錯誤して積み重ねていくのだとすると、悩みや、不安を補う育成支援を考えていく必要があります

今回のアンケート集計にあたり、広報分科会では、様々な議論を繰り返しながら、集計結果を出しました。
全国的な少子化を防ぐ為には、小地域レベルの取り組みでは難しい、また、結婚観が変わってきていることがそもそも少子化のみならず、晩婚化、家族関係の変化を生んでいる・・・それにしても社会環境の大きな変化の中で、迷いや不安感を持ちながらも、懸命に子育てをしている、親たちに今、手助けできることは何だろう・・・等。
是非多くの方に、調査結果をご覧ください、たくさんの方々にご意見を頂きたいと思えます。

最後に、子育てをして良かったと思う事の設問に、最も多くの記載がありましたので、お知らせします

「子育てをして良かったと思うこと」について、ご意見

- ・自分とそっくりになってきた。うりふたつ
- ・兄弟4人なので、子ども達が自ら協力して生活できる様子を見てみると、幸福を感じます。子どもの友達も多いので不安はありません
- ・ニコニコ笑っている時、かわいいと思う
- ・育てると言うより、育てられている。教わる事のほうが
- ・親の気持ちがよくわかり、自分の親に、感謝できるようになった・元気の素。新たな自分の発見。共に成長していく感じ
- ・はるかに多い
- ・毎日、良かったと思ったり、辛かったりします。でも、一緒に
- ・にいておしゃべりしたり、笑い合える時、辛さが吹っ飛びます

支え合い連絡会から

<<「栄区地域福祉計画」>>

本郷中央地区及び上郷西地区分科会報告>>

本年4～6月に本郷中央地区及び上郷西地区分科会を開催し、両地区併せて延べ116名の方にご参加いただきました。毎月1回全3回の分科会を行い、1回目「まちの資源と課題を出し合おう」、2回目「地域福祉の方針を作ろう」、そして3回目「どう実現するか提案しよう」をテーマに、7～8名のグループに分かれて、ワークショップ形式での討議を行いました。3回のグループ討議を重ねて、本郷中央地区では「育てよう！お出かけサポート」ほか5点、上郷西地区では「地域がつながる活動拠点づくり」ほか6点の具体的ご提案をいただきました。お忙しい中ご参加いただいた皆様に、あらためて御礼申し上げます。現在、両地区の提案をまとめる作業を進めていますが、同時に、6月29日をもって全ての地区分科会を終了しましたので、区内7地区全てのまとめを「地区分科会報告集」として発行の予定です。また、9月9日(木)午後2時より区民文化センター「リリス」において、「地区分科会報告フォーラム」を開催し、広く区民の方に地区分科会での討議の報告を行いたいと考えています。この計画の策定は、今後、策定委員会や検討部会において、各地区からいただいた具体的提案に基づいて、「素案」の検討に入ります。12月には「素案」の公表を行うとともに、区民の方々からご意見をいただく「パブリックコメント」を実施します。そして、来年3月に発表するべく、作業を進めていく予定です。

(栄福祉保健センター 事業企画係)

<< 地域福祉関係者分科会 >>

兼ねてから地域役員間での連携の必要性から定期開催の声があった地域福祉関係者分科会ですが、今年度の4月より本郷中央連合地域福祉関係者の分科会を月に1回行っています。分科会の中では、多種役員が協働して福祉活動が出来たら良いのではないかと、という意見から、地域全体が関わってくる、**悪徳商法についての講座**を、地区社協・民生委員・保健活動推進委員・連合町内会・区社協・桂台地域ケアプラザの協働事業として開催する事にし、企画検討中です。「カタリ商法」「点検商法」「催眠商法」など様々な悪徳商法のはびこりに、私達は自衛しなければなりません。その為に、地域のあらゆる団体、組織が連帯、協働して具体的対策を講じることが肝心です。今年度2回(10月中旬・2月中旬)で実施予定です。地域のみなさんも企画について、ご意見ご要望ありましたら、どうぞお寄せ下さい。

本郷中央地区社会福祉協議会 亀澤 弘

<< 地域づくりの会 >>

地域の横の繋がりがどうすれば広がって行くか、暗中模索で色々取り組んで来たこの会も、5年を迎え人数も少ないながら定着し、3月には各コミュニティースクールの皆さんの力作を出展していただき、お互いの情報交換にも結びつけました。尚同日、ホールでは恒例の演奏会を開き少年少女合唱団、

フラダンス等の多様な出演を頂きました。6月には恒例となったウキウキウォーキングを歴史研究会の方々の協賛を得て、歴史ある場所での説明に全員熱心に聞き入り好評でした。最終地点のふじやま公園での竹細工のポックリ作りは、大人も子どもも大喜びで、最後に優秀作品賞などもあり、大いに盛り上がりました。総勢65名(内子ども15名)各地域からの参加で、微力ながら一つ一つの積み重ねで、少しずつ和が広がって行っている様な感触を受けました。暑い日でしたが皆で汗を流し、感じた事を私達は忘れないでしょう。次回企画、たくさんの方の参加をお待ちしています。

公田町 森 博子

<< 子育て支援分科会 >>

地域の0才～15才位までの子どもや保護者を対象に、活動中です。16年度前半期は、おもちゃ文庫に子育て支援分科会から、常時支援者が入り乳幼児と保護者の遊びや、交流のお手伝いをしています。今年度おもちゃ文庫利用者は急増しています。又井戸端サロンは若いお母さんの主体性が高まり、自主的な運営体制になり、口コミで毎回20組近い親子が訪れ、賑やかに井戸端会談が行われています。このお母さん達の子育て分科会参加が実現し、分科会も少々若返って？います。更に5月に行われた、親子講座(未就園児とその親)、7月から始まる中学生ボランティア講座(今年で4年目)も分科会の各担当者が、企画運営に携わり活発に活動しています。少子化のすすむ中、多くの交流の機会を作り、その中で子ども・親、それぞれの「育ち」のサポートが出来たらと考えています。

<< ボランティアグループ分科会 >>

1昨年からはまった(身近なところに高齢者のサロンを)という活動が徐々に広がりをみせています。今年に入ってから西ヶ谷地区、亀井町、桂台西地区でも始まりました。引きこもりを無くし、介護予防にもつながる取り組みです。5月24日のフォローアップ研修『ミニデイ・サロンにおけるレクレーションの実践』では、すぐに役に立つ遊びについて学びました。毎月の分科会では、現場で起こっている対応困難なケースについて皆で考えていこうという(ケース検討)を取り入れました。同じように見えても同じケースは一つも無いということが分かりましたし、皆で話し合うことで、よりよい方向を見つめることができ、とてもよい取り組みだと思います。上郷中学校福祉委員会の生徒さんへ(ヘルパーの仕事について)話す機会がありました。皆さんに福祉の仕事について関心を持っていただけて有意義な時を持ったとともに、このような活動の大切さを痛感しました。



